

プレイバック 2025 上半期

イベントや学校サポート、連携展示など盛りだくさんの活動を写真で振りかえります



4月「世界自閉症啓発デー 連携展示」



5月「図書委員指導（松島小）」



6月「国語単元サポート（東峰小5年）」



6月「男女共同参画週間 連携展示」



7月「移動図書館（五小）」



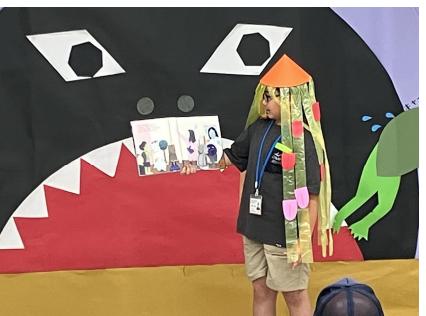
7月「子ども司書養成講座」



7月「今日からはじめる絵本タイム」講師:木村明美さん



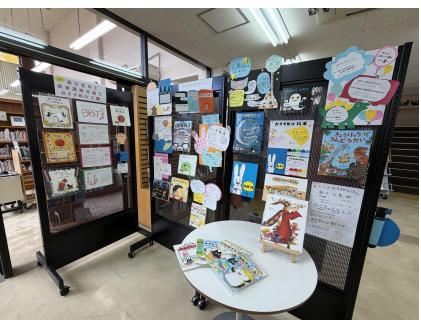
7月「子ども司書養成講座 認定式」



8月「子ども司書 こわ~いおはなし会」



8月「まんがを楽しむ 中学校連携展示」



10月「おすすめ絵本POP展（認定絵本士養成講座受講生）」



本古知新

論語にある「温故知新」をもとにして図書館といえば「本」、五所川原市立図書館といえば「古」くからの郷土資料が多揃っているという当館らしいタイトルを考えました。読み方は「ほんこちしん」と津軽弁で読んでください。
※「ち」は津軽弁独特の「ち」と「つ」の中間の発音です。



【表紙第19号】

五所川原高等学校2年中村さんと中江さん。探究学習テーマに「地域への読書推進」を掲げて奮闘中です。放課後児童クラブに訪問して「どんぐりむらのどんぐりえん」と「もりの100かいだのいえ」の読み聞かせを行いました。「季節を感じられる絵本を選んでみました！」とのこと。「表紙の人にインタビュー」でくわしくご紹介します。

発行 五所川原市立図書館

〒037-0046 五所川原市字栄町 119

TEL0173-34-4334 FAX0173-34-3256

E-mail:tosyokan@city.goshogawara.lg.jp

表紙の人にインタビュー

五所川原高校2年生の中江さんと中村さん。全力で取り組んでいる「総合的な探究の時間」について伺いました。

ー「総合的な探究」について教えてください。

各自で今気になっていることについて「探究」していきます。まずおおまかなテーマを決め、それに対する問い合わせ、問い合わせを解決するためにはどうしたらいいのかを考え、次は実行してみます。振り返った後、再び問い合わせに戻り見直して、を繰り返します。私たちのグループ（3人）は「地域への読書推進」をテーマに設定しました。

ーテーマ設定について詳しく教えてください。

一つ目は、最近の小中高生はあまり本を読んでいないのではないか、それを考えようということ。二つ目は、「コスパ」「タイパ」と読書について考えようということで、テーマを設定しました。

あらすじで5分にまとめたり、3行で言えたりしますが、じゃあなんでこの小説はそこにあるんだろう、時間をかけて読む本の意義はなんだろう、ということを訴えかけたいという気持ちもありました。わざわざ何時間もかけて読破するということは必ずプラスになると思っています。この活動を通して、あらすじだけに頼らない本を読む意味をみつけたいという思いもあります。

ー「読書推進」をテーマに選んだお二人の読書との関わりをお伺いします。

中江さん：もともと本を読むのが好きでした。図書館、図書室、書店に行くと「この本はどんなお話しかな、誰が書いたのかなあ」とか思いながら、余裕で1時間は居られるぐらい。

小学生の頃（栄小）は、「ほっぺたさん」の読み聞かせが楽しみでした。寝る前にディズニーの同じ本の読み聞かせを何度も母にねだったり、小さい頃から本は近しい存在でした。中学生になってから、心境や環境の変化なのか図書室に行かなくなってしまいました。自分でもわからないんですけど。そこからどんどん忙しくなって、読みたい本があっても読めないということが続いていました。探究テーマを「読書推進」にすれば、自分が読書できない理由がわかるかなって。どうして中学生になったらこんなに本を読まなくなっちゃったんだろうとか。もっと日常の中で本をたくさん読みたいなあって、そのためにはどうすればいいのかなっていう。個人探究にもなりそうだなとも思い、テーマを決めました。

中村さん：小学生の時、一人で過ごす時間がなくて本をよく読んでいてそこから読書にはまりました。図書室にあった「ワンピース」全78巻を1年かけて読破しました。たくさん本を読んで博識であることがかっこいいと思ってました（笑）太宰治がめっちゃ好きなんです。初めて読んだ太宰作品は「人間失格」です。中学生になって、教科書に「走れメロス」が出てきた時、クラスに読んだことのない人がいっぱいいてびっくりして。教科書に出てくる詩を読んで、一目ぼれしたら作品を追っかけます。茨木のり子とか島崎藤村とか大好き。通っていた学童に小説も絵本もあって、そこでたくさん読みました。

ーこれまでの取り組みと感想をお伺いします。

すぐに読書率を上げることは難しいと思いましたが、外に働きかけて本に触れることや物語を読むきっ

かけを作れればいいなあということで、放課後児童クラブの子どもたちに読み聞かせをし、その本のPOPを作ってもらい、図書館で展示する、という取り組みを考え実行しました。

小学生へ読み聞かせをしてみて、本を読む楽しさをいかに体験してもらうかというの、ただ本を読む、読んでもらうだけじゃなくて、読んだ本に対して「どこが面白かった？」と声をかけたり、POPを作っているときは「そういえばこんな人が出てきたね。」とか、そういう小さなことで絵本を介してコミュニケーションが取れると、子どもたちも笑顔になりますし、話してくれますし、そういう関わり、会話・対話などコミュニケーションを取るのは大事だなと思いました。



ー一次なる試みを伺います。

中高生への読書を推進するために調査をします。

①私たちグループの3人と五高の先生3人がPOPを作る

②6枚のPOPコンテストを校内で実施

③「高校生作成のPOPに高校生票が集まり、先生作成のPOPに先生票が集まる」という仮説を検証する検証結果から、中高生が本を手に取るきっかけがもっと見えてくるのではないか、そうしたらまたイベントを開催するでもPOPを作るでも新しい動きになるかなあと考えているところです。

高校生の探究活動は続きます。地域のみんなで読書推進、楽しく息長く続けたいですね！

「情報リテラシーを身につけよう～ウィキペディア&図書館で五所川原を知る～」(図書館利用推進事業)を開催

講師に Wikipedia 日本語版元管理者の海獺（らっこ）さんをお迎えし、情報リテラシー講演会（10月11日）、ウィキペディア編集ワークショップ（11月1日）を行いました。



情報リテラシー講演会では16名の方にご参加いただき、ChatGPTなどの生成AIやディープフェイク、情報を受け取るとき・発信するときの注意点など、ますます重要な情報リテラシーについて、海獺さんから楽しく学びました。

ウィキペディア編集ワークショップでは8名の方にご参加いただき、図書館資料を使い、ウィキペディアに五所川原に関する二つの新規記事を作成しました。初対面とは思えない雰囲気で編集作業は和やかに進みました。下記QRコードから成果をご覧ください！

ご参加頂いた方からは、「『情報を後世に残す』という発想は新しい発見でした。」、「ウィキペディアの記事の作り方や操作方法など基本的なことが学べ、後日一人で記事を作成してみました。」などの感想が寄せられました。



ウィキペディア
「雲祥寺」



ウィキペディア
「旧平山家住宅」